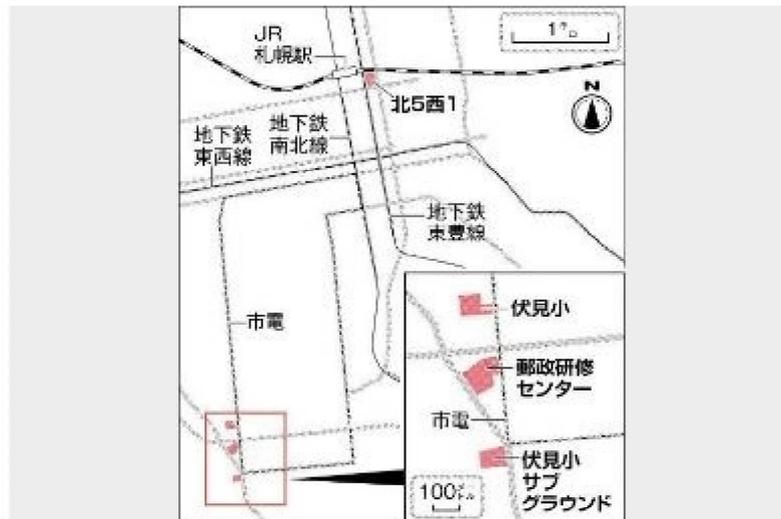


札幌・伏見小が移転改築へ 中央区南20西15に 市と日本郵便が土地交換



札幌市は本年度、JR札幌駅南口の再開発に伴い、中央区北5西1の市有地の一部と、日本郵便が所有する同区南20西15の郵政研修センター跡地の土地を交換する。跡地は同区南18西15の市立伏見小の移転改築先の用地になる見込みで、移転後の開校時期は未定。

研修センター跡地は伏見小の南約250メートルに位置し、広さは約1万5千平方メートル。伏見小の敷地は約1万平方メートルで、移転後は1.5倍になる。現在のグラウンドは狭く形がいびつで、市教委によると、全校一斉で運動会を開く時は同校の南約500メートルにあるサブグラウンド（南22西15）を利用しているという。

校舎は1982年に建設され、老朽化が進む。本年度は24学級、児童682人で、市教委は今後も一定数の児童が在籍するとみている。土地の取得は市が日本郵便に打診した。

市は北5西1に約1万3千平方メートルを所有しており、日本郵便とは研修センター跡地（30億円相当）と市有地の一部を交換する。残りの土地をJR札幌駅南口の再開発組合に売却するなどして得る収入263億円を、市のまちづくり推進基金に積み立てる方針。これらの関連予算を計上した本年度補正予算案を、12日開会の市議会本会議に提出する。